

講義名	観光社会学			授業形態	
担当教員	山川 拓也	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要
 現代社会は、移動という概念のもとで多くの観光客を生み出しており、【旅する社会（Touring Society）】と呼ぶにふさわしい社会（遠藤、2007）となっている。観光社会学は、【旅する社会】における文化状況・社会状況を踏まえつつ、観光をめぐる人と社会の相互関係から生じる諸作用や、実際の観光現象が生成されるプロセスについて考察する学問である。

本科目では、現代社会における観光の構造について社会学の視点から読み解いていく。講義では、最初に事例とする観光地を紹介し、その後、その事例から展開しうる観光社会学の理論トピックスについて説明する。それにより、観光を新たな側面から客観的に分析するための知識と視点を学び、「観光」と「社会」の関係構造について理解できるようにするための視座を涵養する。

到達目標
 ・観光社会学の主要理論の内容を理解し、観光を新たな視点・側面から客観的に捉えられるようになる。
 ・上記をもとに、観光をめぐる人と社会の相互関係から生じる諸作用、実際の観光現象の生成プロセスについて考察できるようになる。

提出課題
 ・「リアクション・ペーパー」（教員が指定した回）< responまたはCampus-Xsで実施予定 >
 ・「授業後の小課題」（教員が指定した回）< responまたはCampus-Xsで実施予定 >
 ・期末論述レポート（詳細については授業中に説明する）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 「授業後の小課題」「リアクション・ペーパー」に関し、解説や補正等を加える必要があると認められたものについては適宜それを共有する。

評価の基準
 下記による総合評価とする。
 前半の確認テスト（理論知識）：25%
 後半の確認テスト（理論知識）：25%
 期末論述レポート：50%
 *毎回の出席確認は厳格に実施する。
 *スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
 *書籍の欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E）
 *遅刻・早退（時間の長短を問わない）は、1回につき0.5回の欠席として算入する。
 * . . . の受検がない場合、得点は0（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
 *「リアクション・ペーパー」の記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。
 *「授業後の小課題」の提出が無い場合、1回の未提出につき2点の減点とする。

履修にあたっての注意・助言他
 履修にあたっては、社会学ならびに観光学の基本的な知識を持っていることが望ましい。

教科書	.使用しない。			

参考図書	.『よくわかる観光社会学』、安村克己、堀野正人、遠藤英樹、寺岡伸恒（編著）ミネルヴァ書房 2860 9784623060375			
.『現代観光学：ツーリズムから「いま」がみえる』、遠藤英樹、橋本和也、神田孝治（編著）新曜社 2640 9784788516052				
.『旅と理論の社会学講義』、多田治（著）公人の友社 2420 9784875559009				

その他
 プリント資料：毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。

授業計画
 イントロダクション（科目ならびに授業の概要説明）、「観光を社会学の視点で読み解く」とは
 観光社会学の射程
 バックパッカーたちの「観光経緯」と「語り」（香港の事例から）
 メディアがつくる「イメージ」と「疑似イベント」（ハワイの事例から）
 「シュミラクル」としての観光（ディズニーランドの事例から）
 ドラマの世界を旅する観光客たち（韓国事例から）
 観光地にひびく「ポリフォニー」（アメリカ・イリノイ州の事例から）
 【テスト】前半の知識確認（フィードバックを含む）
 趣味の観光パフォーマンス（東京の事例から）
 風景の政治学（神戸の事例から）
 観光における「伝統の転移」（高知の事例から）
 これからの観光のあり方（奈良の事例から）
 人びとに生きる力をあたえる観光（アメリカ・フロリダ州オーランドの事例から）
 【テスト】後半の知識確認（フィードバックを含む）
 科目のまとめ、総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 （予習：120分/回）
 ・当日の事例となる観光地について、各種のメディア情報等から予備知識を得るようにする。
 （復習：120分/回）
 ・授業内容（特に理論に関する説明）を整理し、翌週の授業での質問事項の有無について確認しておく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 本科目は、観光が現代社会の多様な事象や現象および社会の姿容に関わっていることについての学びを含んでいる。観光は時々の社会状況と密接に関連しており、一時的に停滞したとしても、新たな観光形態による新たなコミュニケーションが生み出される。本科目では、観光を個人が余暇を過ごすための一つとしてだけでなく、経済、政治、文化といった様々な側面との深い関係をもとに注視される社会コミュニケーションと認識することにより、自身が社会の一員であることについても深く理解することができる。したがって、本科目の到達目標を到達することにより、本学ならびに学部・学科のOPに貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 ・学修課題への取り組みにおいて、responやLMS（Campus-Xs）を活用する。
 ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用
 「実務経験あり」
 旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画・運営、添乗、海外駐在、市場戦略策定）により得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考
 ・科目の進捗状況等によって授業の内容や順序を変更する場合があります。その際には事前に告知する。